

文化・芸術



「桐生鳥瞰図」

2016年、墨、和紙
160.8cm×300.0cm（作家蔵）

金原寿浩（1962年）

金原寿浩さんは東京都に生まれ、創形美術学校版画科研究課程を修了。1994年から桐生に移住して制作しています。

本作の「鳥瞰図」は上空から見下ろしたような図のこと。中央に走る本町通りの先は、桐生天満宮の鳥居を抜け、山に続いてゆきます。遠くに北海道まで見え、東日本大震災の東北地方もここから地続きであることを改めて感じます。

金原さんは実際に被災地に立ち、その壊滅的な景色に色を感じられず墨で描き始めたといいいます。薄墨を重ね

た本作のほか、展示室には、濃くすった墨の点の重ね具合で描かれる作品が並びます。深さ、重さ、さらつき、冷たさ、つやなど、そこに生み出される豊かな黒の質感は、見る者を一瞬にして色のない世界に連れ込み、手に触れさせるかのようです。墨と和紙という伝統的な素材をジャンルにとらわれずに、素材の魅力と自らの表現に取り合わせた作品として展開させています。

※金原寿浩さんのアーティストトークは26日午後2時から展示室で開催します。

（大谷）

〈名画の扉〉

企画展「The日本・画一大川美術館のコレクションを中心に」から